



大江戸線延伸の早期事業着手を東京都へ要請

と き	1月22日(金)提出	場 所	東京都庁
-----	------------	-----	------

22日、練馬区、区議会、延伸地域の町会で組織する大江戸線延伸促進期成同盟と区内経済・産業団体、町会等で組織する大江戸線延伸推進会議（構成団体は下記参照）は東京都庁を訪問し、大江戸線延伸の早期事業着手を求める要望書を提出した。

事業化に向けた課題の検討を早急に進めることなど5項目を要望した。

対応した内藤交通局長は、「将来の旅客需要の分析・評価や延伸および混雑対策に必要な設備・施設について検討を進めている。課題の解決に向けて適切に対応していきたい」と話した。



▲左から、奥山建設局道路監、福田都市整備局技監、内藤交通局長、小西副区長、山内副区長

【要望書内容】

別紙の通り

【大江戸線延伸推進会議】

これまで区・区議会・延伸地域の町会で組織する「大江戸線延伸促進期成同盟」が中心となり関係機関への要請活動、促進大会の開催、啓発活動等に取り組んできた。大江戸線の延伸は、区への経済効果も大きいことから、平成29年8月に大江戸線延伸促進期成同盟は区内経済・産業団体、町会等8つの団体と「大江戸線延伸推進会議」を設立し、大江戸線の延伸実現に向けて一丸となって活動を進めることとした。

■構成団体（9団体）

大江戸線延伸促進期成同盟、（一社）練馬産業連合会、東京商工会議所練馬支部、練馬区商店街連合会、（公社）練馬東法人会、（公社）練馬西法人会、東京あおば農業協同組合、練馬区町会連合会、光が丘地区連合協議会

■大江戸線延伸推進会議の活動

- ① 広報啓発活動、周知協力
- ② 関係機関への働きかけ（関係機関への要請活動、各団体本部組織等への働きかけ）

【これまでの状況】

大江戸線の延伸（光が丘～大泉学園町間）については、都と区が事業化に関する協議を積み重ねてきた結果、都や国の計画において整備に向けて明確に位置付けられた。令和元年12月に公表された『『未来の東京』戦略ビジョン』において、都は、延伸について「関係者と事業化について協議・調整を進める」と位置付けた。

区においては、大江戸線延伸推進会議の活動に加えて、延伸に向けた都との実務的協議や大江戸線延伸推進基金の積み立て、新駅予定地周辺を中心に良質な環境に資するまちづくりを進めるなど、早期事業着手に向けて精力的に取り組んでいる。